

教科目名 工学実験基礎 (Basic Engineering Experiments)

学科名・学年 : 情報工学科 1年

単位数など : 必修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 授業時間 39 時間)

担当教員 : プロハースカ・ズデネク, 岡茂八郎

授業の概要			
<p>情報工学科は情報技術を主とする学科であるが学生の実体験としての「ものづくり」を重視している学科である。この科目では、情報技術と関連が深く数年後に学習する電気電子技術の入門として「簡単ラジオの製作」を行い、「ものづくり」の一端を学習する。また、「ものづくり」に不可欠な関数電卓の使い方を学習し、さらに、「ものづくり」の際に技術者同士の連携を図るために必要な図面を読めて、書けることを目標に製図の基礎とCADを体験・学習する</p>			
達成目標と評価方法			大分高専目標(D1)
<p>(1) 工学実験で使用する装置・器具を使うことができ、レポートを書くことができる。(レポート1, 実験への取組状況)</p> <p>(2) 簡単ラジオの製作を通して電気電子技術の基礎を体験し電気電子技術は情報技術の基礎であることを理解できる。(レポート1, 実験への取組状況)</p> <p>(3) 製図やCADの基礎を実技を通して学ぶことによって簡単な図面を書くことができる。(レポート2, 実験への取組状況)</p> <p>(4) 工学の実用例に触れる企業見学を通して、実社会での技術者の仕事を理解できる。(レポート3)</p>			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 . . . 10 11 12 13	1. オリエンテーション ・各実験室の紹介 ・各種工作器具の使い方 2. 簡単ラジオの製作と増幅回路の増設	○この教科の概要, 計画, 実験, 出欠に関する一般的注意, 報告書(レポート)の作成方法の説明。 ○実験室の使い方の説明。 ○半田ごて, ボール盤, 帯のこなどの簡単な工作器具の使い方の説明。 ○手作り簡単ラジオを通してラジオ(電気電子技術)への興味を抱く。 ○簡単ラジオにトランジスタによる増幅回路を増設し増幅回路に触れる。 ○工学実験におけるレポートを書くことができる。	【理解の度合い】
14 15 . . . 20 21 22 . . 26	4. 関数電卓の使い方(小テスト) 5. 製図の基礎 (レポート2-1) 6. 企業見学(レポート3) 7. CADの基礎 (レポート2-2)	○工学を学ぶ場合に数値計算に便利な関数電卓を使うことができる。 ○図学の基礎的図面を書く。 ○作図法の基礎を学習する。 ○機械製図の基礎知識を獲得し簡単な応用図面を書くことができる。 ○近隣の企業の事業所(製造工場など)を見学することによって社会における工学の位置づけの一端を知ることができる。 ○コンピュータを使った製図の基礎知識を獲得し, CADを利用することができる。 ○簡単な応用図面を書くことができる。	【理解の度合い】
履 修 上 の 注 意	(1) 全てのテーマについて積極的に取り組むこと。 (2) レポートは期限を確実に守り, 指示された要件を必ず備えること。		【総合達成度】
教 科 書	本学科で作成した実験・演習マニュアル		
参 考 図 書			
自 学 上 の 注 意	次回の実験内容について実験・演習マニュアルを予習しておくこと。		
関 連 科 目	工学実験 I		
総 合 評 価	<p>総合評価は, 達成目標の(1)~(4)について3回のレポート点(各最大100点満点, 各レポートの満点については各レポートの提出期限の遵守状況によって変化する。), 小テスト点(100点満点), 実験への取組状況(100点満点)について以下の式を用いて評価する。各レポートの総合評価が60点以上を合格とする。</p> <p>総合評価=(レポート1, レポート2, レポート3を2:2:1の比重で加重平均)*0.6+(小テスト点)*0.1+(実験への取組状況)*0.3</p> <p>なお, 「レポート提出期限の遵守状況」および「実験への取組状況」は別途, 実験・演習マニュアルに定める。</p> <p>なお, 再試験は実施しない。</p>		【総合評価】 点